

新約聖書の中の奥義 第5回

□この学び全体のアウトライン

第一部 イン트로ダクション

第二部 奥義としての神の国

第三部 教会に関する5つの奥義

第四部 イスラエルが頑なになることに関連する奥義

第五部 サタンの2つの奥義 と それを打ち破る神の8番目の奥義

□第二部「奥義としての神の国」のアウトライン

A) 神の計画における「神の国」

B) 神の国がもつ5つの層

1. 全宇宙的な国、または永遠の国
2. 霊的な国
3. 神政の国
4. メシアの王国、または千年王国

5. 奥義としての神の国

□B-5 のアウトライン

1. 「奥義としての神の国」という用語の定義
2. 「奥義としての神の国」のたとえ話（マタイ 13 章、マルコ 4 章、ルカ 8 章）
3. 9つのたとえ話のまとめ
4. 他の4つの層との区別、教会との区別

□本日の前半の内容

本日の前半は、「4. 他の4つの層との区別、教会との区別」です。

□前回のポイント

1. 「奥義としての神の国」の始まりと終わり

(1) 始まり：マタイ 12 章でイスラエルの指導者たちがイエスのメシア性を否定した。その結果、イエスが提供しようとしていた「メシアの王国」は、そのときの世代のイスラエルから取り去られ、将来、大患難期のときの世代のイスラエルに与えられるのを待つことになった。

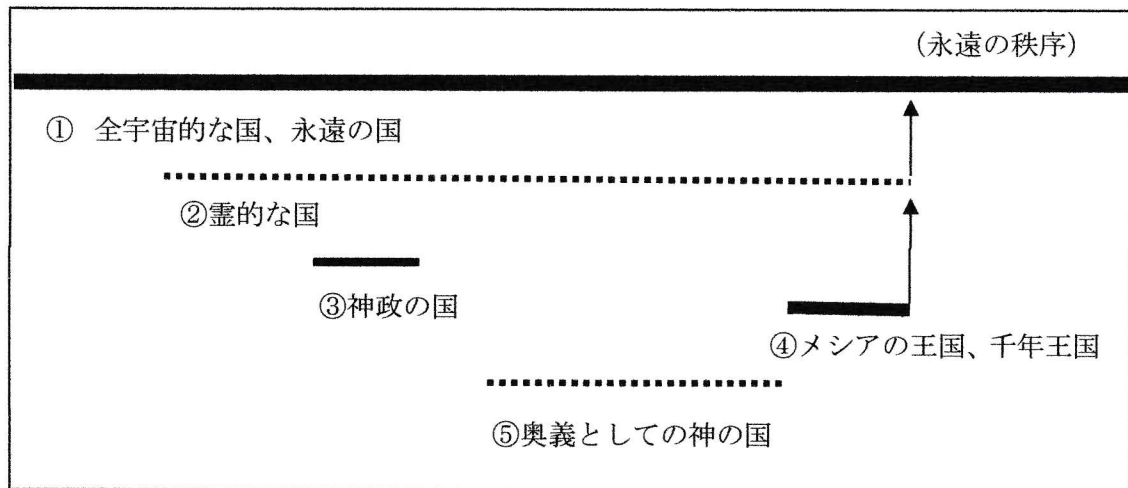
(2) 終わり

① 大患難期の末期に、その世代のイスラエル民族はイエスをメシアとして認め、メシアに天から地上にお戻りくださいと願うことになる（マタイ 23:37～39、24:1～25:46）。

② これを受けて、メシアは天を出て、地上にお帰りになる。メシアの再臨。

- ③ その後、メシアの王国が始まるまでの準備期間が75日。その間に、諸国民の裁きがある。この裁きをもって、「奥義としての神の国」の時期は終わる。
2. 「奥義としての神の国」とは、どのような国か?・・・マタイ13章、マルコ4章、ルカ8章に記される9つのたとえ話は、奥義としての神の国の特徴を教えるものである。
- (1) 種まきのたとえ話→「奥義としての神の国」の時期を通じて、福音の種まきが行われる。このとき、まかれた種をついばんで奪っていく鳥は、悪魔とその配下の悪霊たちである。悪魔は福音の種まきを妨害する。
 - (2) まかれた種は自ら育つことのたとえ話→蒔かれた福音の種は、内側にエネルギーを持っていて、自ら芽を出し、育つ。
 - (3) 毒麦のたとえ話→真の種まきが行われるところで、それに対抗して、偽の種まきが行われる。その背後にいるのは、悪魔である。悪魔は福音の種まきを妨害するだけでなく、偽の宣教活動を行う。次の4番目と5番目のたとえ話は、この偽の種まきの結果である。
 - (4) からし種のたとえ話→外面的には大成功して見事な成長をしていくかのように見えたが、そこには、鳥が来て巣を作る。すなわち、悪魔とその配下の悪霊たちによる偽の宣教活動の方が優勢になる。
 - (5) パン種のたとえ話→パン種は、罪、とくに教理的な誤った教えを象徴する。奥義としての神の国は、大きく膨らむが、その内面には罪の腐敗、教理的な過ちが含まれている。
 - (6) 隠された宝のたとえ話→4番や5番の結果にはなっていくが、しかし、神の計画は着実に進んでいく。宝は、神の民イスラエルを象徴する。1番と2番の福音の種まきによって、神は、イスラエル民族の中から、レムナント（イスラエルの残れる者たち＝少数の残りの者が信仰者となる）を得る。教会の中のユダヤ人信者が、彼らである。
 - (7) 高価な真珠のたとえ話→海は異邦人世界を象徴する。神はまた、異邦人の中からも信者を得る。それが高価な真珠である。前の6番目では宝はユダヤ人信者であった。7番目のたとえ話の真珠は、異邦人信者である。ユダヤ人信者と異邦人信者、この両者が一つとなるのが真の教会である。このことは、第三部「教会に関する5つの奥義」において詳しく扱う。
 - (8) 地引網のたとえ話→海は異邦人世界を象徴する。地引網は、大患難期が終わり、メシアの王国に入る前の、諸国民の裁き（マタイ25章31～46節）である。この裁きをもって、奥義としての神の国が終わる。大患難期を生き延びた異邦人たちは、義人たちとそうでない人々、すなわち信者と不信者とに分けられ、義人たちは、メシアの王国に入ることができる。
 - (9) 家の主人のたとえ話→新しい物とは「奥義としての神の国」、古い物とは、神の国の他の4つの層。それらは似ているところもあれば、そうでないところもある。キリストの弟子たちは、それを理解すれば、聖書を正しく用いることができる。

□他の4つの層との区別、教会との区別



1. 全宇宙的な、永遠の国との区別
 - (1) 時間の観点で区別される。
 - ① 全宇宙的な永遠の国は、永遠に続く。
 - ② 奥義としての神の国は、時限的である。
 - (2) さらに、領域の観点でも、区別される。
 - ① 全宇宙的な永遠の国は、この地上だけでなく、全宇宙、物質界すべて、そして天使たちのいる霊の世界も、含む。
 - ② 奥義としての神の国の領域は、この地上だけである。
2. 霊的な国との区別
 - (1) 国民の観点で区別される。
 - ① 霊的な国は、真の信者だけである。アダムから、千年王国で最後に救われる人まで、すべての時代のすべての真の信仰者が霊的な国の国民である。
 - ② 奥義としての神の国には、信者も不信者も、両方がいる。
 - (2) 「奥義としての神の国」の信者は、同時に「霊的な国」の国民でもある。
3. 神政の国との区別：
 - (1) 国民の観点で区別される。
 - ① 神政の国は、イスラエル民族のみが国民である。
 - ② 奥義としての神の国は、ユダヤ人も異邦人も、その両方がいる。
4. メシアの王国との区別：
 - (1) 支配者の観点で区別される。
 - ① メシアの王国では、王であるイエス・キリストは、地上のエルサレムにいて地上の全世界を支配する。
 - ② 奥義としての神の国では、イエス・キリストは天におられる。
 - (2) 信者だけでなく、不信者もいる点では、似ている。
 - ① メシアの王国は、建国スタート時点では、その国民はユダヤ人も異邦人も皆

信者である。

- ② しかし、彼らの中には、大患難期を生き延びてメシアの王国に入った人々がいる。彼らから生まれる第2世代以降、新たに生まれてくる人たちは、信仰を持つまでは信者ではない。→ この不信者がメシアの王国の最後の時期に反乱を起こすことになる（黙20:7~10）

5. 教会との区別

- (1) 教会時代は、奥義としての神の国の時期の中に含まれる。

- ① 奥義としての神の国は、マタイ12章のイスラエルのメシア拒否から始まるが、そのときはまだ、教会は存在しない。教会は使徒2章の聖霊降臨で誕生した。
- ② 教会時代において、地上の地域教会の中には、信者と不信者とが混在する。
- 信者の部分では、彼らは「良い麦」である。良い麦のうちユダヤ人は「宝」であり、異邦人は「真珠」である。

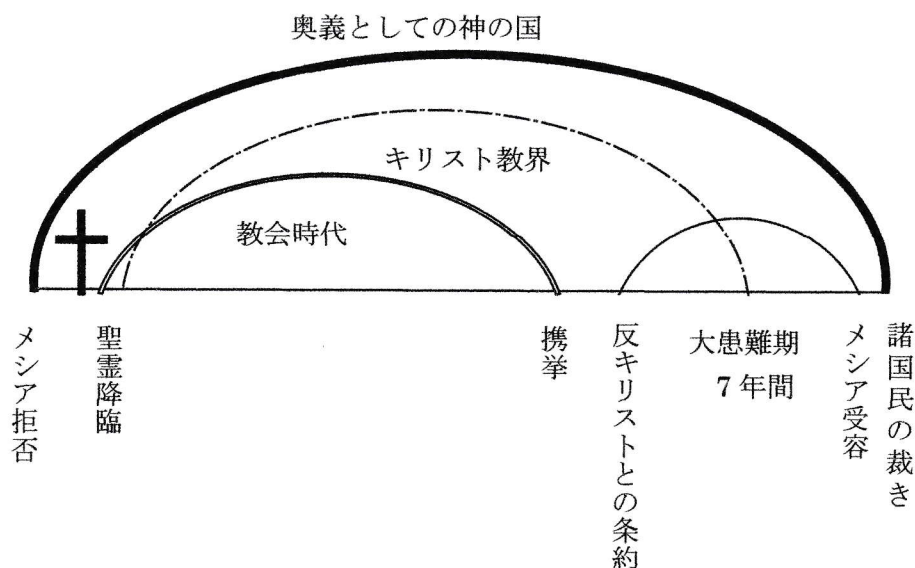
- ③ 教会時代は、携挙によって終わる。その後も、奥義としての神の国は続く。

- (2) 教会時代が終わったあとの、奥義としての神の国

- ① 教会の携挙の後、どのくらいの時間的間隔があるかはわからないが、地上は大患難期へと入る。
- ② 大患難期においても、人は、神の恵みにより信仰を通して救われる。彼らもまた「良い麦」である。

- (3) 大患難期は、奥義としての神の国の最終局面である。

- ① 大患難期は全部で7年間
- ② その最後に、イスラエル民族がイエスをメシアとして認め、メシアが地上に再臨し、大患難期は終わる。
- ③ その後、75日間の準備期間を経て、メシアの王国へと時代は移る。
- ④ その準備期間である75日の間に、「地引網」でたとえられた諸国民の裁きがある。その裁きをもって、奥義としての神の国は終了する。



□ 第三部「教会に関する5つの奥義」のアウトライン

- A) 七つの星と七つの金の燭台の奥義
- B) からだの奥義
- C) 内住のメシアの奥義
- D) メシアの花嫁としての教会についての奥義
- E) 信者の変換の奥義

□ 本日の後半の内容

本日の後半は、「A) 七つの星と七つの金の燭台の奥義」です。

□ A) 七つの星と七つの金の燭台の奥義

1. 黙示録 1:20 あなたがわたしの右手に見た七つの星と、七つの金の燭台の、秘められた意味 (= ギムステリオン 奥義) について。七つの星は、七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である。
2. 黙示録 1:12~16
 - (1) 12節 ヨハネは、七つの金の燭台を見た。
 - (2) 13節 その七つの燭台の真ん中に、人の子のような方 (=メシア) を見た。
 - (3) 13~16節 メシアの姿に関する説明
 - ① 足まで垂れた衣をまとう
 - ② 胸に、金の帯を締める
 - ③ 頭と髪は、白い羊毛のように、また雪のように、白い
 - ④ 目は、燃える炎のようである
 - ⑤ 足は、炉で精錬された、光り輝く真鍮のようである
 - ⑥ 声は、大水のとどろきのようである
 - ⑦ 右手に 七つの星 を持つ
 - ⑧ 口から、鋭い両刃の剣が出ている
 - ⑨ 顔は、照り輝く太陽のようであった
3. 20節 この奥義の内容は、2つ
 - (1) 七つの金の燭台は、七つの教会である
 - (2) 七つの星は、その七つの教会の御使いたちである
4. 七つの金の燭台
 - (1) 旧約聖書には、七枝の金の燭台 (メノラー) が登場する。それは、イスラエル民族のシンボルである。そのことは奥義ではない。
 - (2) 黙示録では、燭台が、イエスをメシアであると証言する信仰者たちのシンボルとして登場する (11:3~4)。
 - (3) 地上の地域教会の一つひとつが、メシアを証言する信仰者たちの集まりである。
「七つの金の燭台は、七つの教会である」とは、金の燭台は、地域教会の一つひとつを象徴する、ということ。これは、旧約聖書では教えられておらず、新約聖書で明らかにされたこと=奥義である。

- (4) もし、金の燭台である地域教会が、その使命を果たさないようになったら、どうなるか。黙示録 2:5 「わたしはあなたのところに行って、あなたの燭台をその場所から取り除く」→ 地上の地域教会が歴史上、できては消えていったのは、そのためである。
5. 七つの教会の御使いたち
- (1) 星が象徴として用いられる場合、それは多くの場合、天使を指す。そのことは、旧約聖書においてすでに知られており、奥義ではない。
- (2) ここで奥義となる内容は、地上の地域教会の一つひとつに、守護天使がついている、ということ。これは、旧約聖書では明らかにされていなかった。
- (3) 天使の役割としてよく聖書に登場するのは、人間に神からの祝福や神の裁きをもたらすことである。黙示録の 2 章では、エペソ、スミルナ、ペルガモン、ティアティラ、3 章では、サルディス、フィラデルフィア、ラオディキア、合計七つの教会に手紙が宛てられているが、それらの内容もまた、神からの祝福と神の裁きについてである。
- (4) 【補足】天使による守護
- ① 子どもの守護（マタイ 18:10 「彼らの御使いたち」）
 - ② 信者の守護（詩 34:7、91:11、ヘブ 1:14）
 - ③ 地域教会の守護（黙 1:20、黙 2 章・3 章の七つの教会の御使いたち）

□【参考資料】 聖なる天使たちについて

1. 聖なる天使たちの呼び方
 - (1) 「選ばれた御使いたち」（1 テモ 5:21）
 - (2) 「聖なる御使いたち」（マコ 8:38、ルカ 9:26）
 - (3) 「聖なる者たち」「聖なる者」（詩 89:5、7、ダニ 4:13、17、8:13）
2. 天使の現れ方、三つのパターン
 - (1) 夢（創 28:12）
 - (2) 幻（ダニエル、ゼカリヤ、黙示録における使徒ヨハネ）
 - (3) シンプルに姿を現す（イエスの墓に現れた天使たち）
3. 天使の外観の特徴
 - (1) 常に若い男性
 - ① 創 18:1~2、16、22、19:1~22・・・19:5 「あの男たち」
 - ② マルコ 16:5 「青年」 ギネアニスコス 40 歳以下の男性
 - ③ ルカ 24:4、使徒 1:10 「人」 ギアネール 男性
 - (2) 女性、子ども、老人のケースは皆無。キューピッドは存在しない。
4. 天使を見とときの人間側の反応は「恐怖」

ダニ 10:4~9、マタ 28:2~6、ルカ 1:11~12、26~30、2:9
5. 天使の特質
 - (1) 聖なるもの
 - (2) 力あるもの（詩 103:20、マタ 28:2、使徒 5:19、12:23）

(3) 不死 (ルカ 20 : 35~36)

(4) 天使礼拝は禁止 (コロ 2 : 18、黙 19 : 10、22 : 8~9)

6. 天使の組織

(1) 天使が組織されていることを示す 8 つのタイトル (pl : 複数形)

	ギリシヤ語	コロ 1 : 16	エペ 1 : 21	エペ 3 : 10	I ペテ 3 : 22
①	スロノス	王座 pl			
②	クリオテース	主権 pl	主権		
③	アルケー	支配 pl	all+支配	支配 pl	
④	デュナミス		権力		権力 pl
⑤	エグゾウシア	権威 pl	権威	権威 pl	権威 pl

⑥ ホスト (I 列 22 : 19、詩 103 : 21、148 : 2 万軍・軍勢、ルカ 2 : 13 軍勢)

⑦ レギオン (マタイ 26 : 53 軍団)

⑧ プリンス (ダニエル 10 : 13~21、12 : 1、君)

(2) 天使の 3 つの階層

① ☐ ケルビム【護衛する、カバーする】(創 3 : 24、出 25 : 18~22、エゼ 1 : 5~28、10 : 1~22、28 : 14~16、41 : 18~20、詩 18 : 10→黙 19 : 11)

② ☐ セラフィム【燃えるもの】(イザヤ 6 : 1~7、黙 4 : 6~11、5 : 6、5 : 8~14、6 : 1~8、7 : 11~12、14 : 3、15 : 7、黙 19 : 4~5)

③ 天使

7. 天使の働き (信者との関係において)

(1) 信者の救いに対して : 喜ぶ (ルカ 15 : 10)

(2) 信者の守護 : 詩 34 : 7、91 : 11、マタ 18 : 10、へブ 1 : 14

(3) 信者の救出 : 創 19 : 1~22、I 列 19 : 5~6、ダニ 3 : 24~28、6 : 22、使徒 5 : 17~20、12 : 6~11

(4) 信者の指導 : マタ 1 : 20~21、使徒 8 : 26、10 : 3~8、27 : 23~24

(5) 信者の祈りに対して : 天使を通して応答されることがある ダニ 9 : 20~23、10 : 12、使徒 12 : 1~19

(6) 信者を励ますこと : 使徒 5 : 18~20、27 : 23~25

(7) 信者の死に際して靈魂を天の住まいへ連れて行く : ルカ 16 : 22

(8) 信者を観察する職務 : ルカ 12 : 8~9 → 15 : 10、I コリ 4 : 9、11 : 10、I テモ 5 : 21、I ペテ 1 : 10~12

(9) 地域教会の守護 : 黙 1 : 20、黙 2 章・3 章の七つの教会の御使いたち

(10) 天使に対する信者の正しい態度

① 驚いたり、恐れたり、ひれ伏すのは許される (ダニ 8 : 16~17、10 : 1~9)

② 天使の働きに感謝してもよい (へブ 1 : 14) が、天使に祈ってはいけない

③ 天使を礼拝してはならない

8. 将来、信者は「天使を裁く」(I コリ 6 : 3) ことについて

(1) 「天使」は、墮天使、悪い天使 (サタンと悪霊たち) を指す

(2) 「裁く」は、大きな白い御座でのさばき (黙 20 : 10~15)、その結果が 10 節